ペットとともに

震災後の寄付 分配に課題

7億円超 現場に不満も

東日本大震災では多くの犬や猫などのペットも被災した。その救援のための寄付の窓口になったのが「緊急災害時動物救援本部（現ペット災害対策推進協会）」だった。動物愛護団体などの活動を支えたが、支出先などについて批判も聞かれた。震災から5年を振り返る。

JR福島駅（福島市）から車で約30分の山あいに「SORAアニマルシェルター」がある。震災で飼い主とはぐれたり、一緒に暮らせなかったりする犬猫約50匹が今も暮らす。

雄の秋田犬、アキタも福島県南相馬市内に取り残されていて保護された。昨年5月、アキタにがんが見つかった。手術をしたが、今年に入り獣医師から「余命はわずか」と告げられた。二階堂利枝代表は「5年は犬猫には長かった」と話す。

こうした救援活動の支えになったのが、全国から救援本部に集まった寄付金だった。救援本部には、東日本大震災で総額7億2583万円余りの寄付金が集まった。

救援本部の公表資料によると、被災自治体が中心となって作る現地本部や動物愛護団体に支給された寄付は、のべ149団体に対し、計約5億6700万円分にのぼる。単純計算で1団体に1回あたり約380万円が支給されたことになる。

支援を受けた団体からは感謝の声が聞かれる。だが一方で、支給基準に問題があるなどの批判も特に初期段階に出ていた。2012年半ばまで救援本部の現場トップの部長だった会田保彦氏は11年12月、「義援金の交付先の公開について」とする文書をホームページに載せた。そのなかで、「相応しくないと思われる団体に交付がなされており、交付審査に疑義があるというご意見を複数頂戴いたしました」と認め、すべての支出先公開の目的を「（団体の活動を）皆様に監視・監督していただく」ためとした。

それでも、被災地で活動を続ける団体には、支出のタイミングが遅く、申請より少ない額しか支給されない案件もあり、不満は解消されなかった。「出し渋っているとしか思えず、頼れないと感じた」と、福島県動物救護本部関係者は指摘する。

福島市内の「SORAアニマルシェルター」で暮らす秋田犬のアキタ。成犬、成猫にとっての5年は、人間の20年分にあたる

「大規模災害で整理できず」

会田氏はこう振り返る。「一定の条件を決めて申請をしてもらい、1割程度については条件が合わなかったため支出しなかった。大規模な災害のため物資や寄付金の整理ができなかったことは確か。当時の活動を自己採点すれば30点未満」

救援本部は会田氏と中川志郎本部長の体制で約4億円の寄付金を支出。13年5月に日本愛玩動物協会の東海林克彦会長が本部長に就き、14年6月に一般財団法人に改組した。

一方で14年7月、寄付者らが「1年半以上、2億円余りの義援金が塩漬けになっている」として、救援本部に200万円の賠償を求める訴訟を起こした。16年2月に東京高裁が控訴を棄却し、救援本部の勝訴が確定した。裁判と前後して、救援本部は残っていた寄付金約2億円を支出した。これが再び不信感を招いた。

14、15年に支出した約2億円のうち、震災から5年を経た今年3月11日時点で支出先を公表していたのは、その7割にあたる約1億4千万円分。約6千万円分は支出先などを公表しなかった。このため朝日新聞社は3月9日付で24項目（後に3項目追加）の質問書を送付。これへの救援本部（現推進協会）の回答で、特定の団体、企業にまとまった額の支出があったことがわかった。

まず、37団体に計1億20万円分のペットフードなどに交換できる「ポイント」を支給しているが、これを利用できる通販サイトの運営会社「インターズー・クリニッククラブ」に約1300万円が業務の委託費として支払われていた。

また、仮設住宅にいるペットにトリミングをするなどの事業のため、14年は「日本ペットサロン協会」と「ふくしまプロジェクト」に合計約2千万円、15年には同協会に約1500万円をそれぞれ支出していた。14年分については、のべ298匹にトリミングなどを実施したという。

ふくしまプロジェクトには、ほかに被災動物サーチプロジェクトに関する広報事業などとして約380万円なども支出されていた。

救援本部（現推進協会）によると、サーチプロジェクトで「再会や譲渡をしたという報告を受けたことはない」という。また、これら支出先を非公表にした理由を「愛護団体などへの寄付ではなく、業務の対価としての支出」だったためと説明した。

救援本部は16年3月、再び改組し、理事長も交代した。15年9月現在では、1117万5263円の寄付金が残っているという。（太田匡彦）

「健康相談」や「症状辞典」 会員向け新サービス

ペット情報のウェブメディア「sippo（シッポ）」（朝日新聞社運営）に、犬や猫の飼い主さん向けの二つのサービスが追加されました。

いずれも、新しく仕組みができたsippo会員（無料）向けです。ご利用前に簡単な登録手続きをお願いします。

イヌ・ネコの健康医療相談のページ

sippo　検索

新サービスの一つは「イヌ・ネコの健康医療相談」。サイトで犬や猫の健康について相談すると、「動物臨床医学研究所」所属の現役の獣医師らが回答してくれるサービスです。会員も他の会員にアドバイスすることができます。

もう一つは「イヌ・ネコの症状辞典」。動物病院に行く前に、犬や猫の症状から考えられる病気やけがを調べられるコンテンツです。辞書のように使えます。

また、既存の「動物病院検索」の動物病院の詳細情報部分も会員向けとなりました。現在は首都圏のみですが、春以降、関西、中部圏にも拡大する予定です。

診察室から

咳が出る猫 心筋症の可能性

倉吉動物医療センター会長　山根義久さん

——猫の元気がなく、高い所に登るのに失敗しました。まだ5歳と若いのに、心配です。

それだけでは何とも言えませんが、普段に比べて運動機能が低下してきたのであれば、心筋症の可能性を考えてみる必要があります。

——どんな病気ですか？

猫で最も多い疾患の一つですが、その原因は不明です。大きく肥大型、拘束型、拡張型の三つのタイプがあり、心室壁が厚くなり、心室の内部が狭まってしまう肥大型心筋症の発生が特に多いです。どのタイプも心室の機能が衰えるため、血液を全身に十分に送り出すことができなくなります。拡張型は、原因の多くがタウリン欠乏によるものであることが分かり、そのケースについては心筋症からは除外されました。同時に、市販のキャットフードにタウリンが添加されるようになり、急速に見られなくなりました。

——血液の循環が十分に行われなくなると、どんな問題が起きますか？

まず、肺に水がたまる肺水腫を起こし、呼吸が速くなったり、むせるような咳が出たり、時には呼吸困難になったりします。猫にこうした様子が見られたら、すぐに動物病院に行った方がいいでしょう。

無症状から、状態が急速に悪化することがあります。最も怖いのが、腹部大動脈に血栓が詰まること。心筋症の猫の約50％にこの症状が出ると言われます。飼い主は、猫がいきなり悲鳴をあげて初めて気付きます。そうなると後ろ脚が麻痺するなどし、予後は非常に悪くなります。

——治療法はありますか？

腹部大動脈血栓症になったら、状態にもよりますが、血栓溶解剤などの投与による内科療法を行います。中には急いで外科手術をし、血栓を摘出しなければいけないケースもあります。ただ、手術成績はあまり良くありません。

そのため、なるべく早く心筋症に気付いてあげることが大切です。食欲が減り、呼吸器に関わる症状が時々出て、運動機能が低下してきたなと思った段階で心筋症がわかれば、薬の投与で、血栓ができないようにしていけます。

——早期発見のコツはありますか？

日常生活のなかでの変化を見逃さないよう、普段からよく猫の様子を見てあげることです。その上で、心エコーを含む健康診断を定期的に受けさせましょう。

おしえて

保護犬を飼いたいと思います。どこで出会えますか？

動物保護財団クリステル・ヴィ・アンサンブル代表の滝川クリステルさんの話　引き取り先の選択肢は大きくわけて二つあります。一つは、動物愛護センターや保健所など地方自治体が運営する施設。もう一つは、動物保護団体が運営する民間シェルターです。

前者にいる犬たちの多くは「命の期限」が切られており、差し迫った状況に置かれています。「救う」という意味では緊急性が高いと言えますが、元は野犬だったというケースもあり、人慣れしていない可能性があります。

ただ、私の友人が2、3カ月前に、ある保健所からシバイヌの雑種とみられる元野犬を引き取ったのですが、とてもおとなしい子でした。私が飼っているアリスとも、おもちゃを使って上手に遊べます。動物保護活動に携わっている方の中には「元野犬は、いったん人になつくと問題行動も少なく、飼い主に忠実な犬になる」と言う人もいます。

一方でシェルターにいる犬たちは、元の飼い主に飼育放棄された子たちが多いため人慣れしていて、団体によってはしつけをしてくれているところもあります。犬の来歴や性格がわかっているケースが多く、引き取る際の心的ハードルは相対的に低いと言えます。

私の場合は、アリスを保護団体から引き取りました。トレーナーさんや動物病院を紹介してくれるなど、しっかりアフターフォローもしてくれました。ただ、団体ごとに譲渡条件が異なるので、気に入った犬に出会っても、引き取れないこともあります。また、実際に飼えるかどうか判断するためのトライアル期間を設けている団体もあります。

いずれにしても、保護犬を飼うには、犬としっかり向き合い、しつけなどをするだけの時間や金銭の余裕が求められます。心に傷を負っている子も少なくなく、寄り添ってあげる必要もあります。それでも、心を閉ざしていた犬と信頼関係を結べたと感じられる瞬間は、本当に感動的です。

自治体も保護団体も、定期的に「譲渡会」をやっています。まずそういった場に足を運び、どこから引き取るのが自分に合っているのか、見極めてみてください。まわりに保護犬を飼っている人がいれば、体験談を聞いてみるのもいいと思います。

朝日新聞社は、「ペットとともに」を2カ月に1回程度掲載し、ペットに関する情報発信を強化していきます。

20周年
選ばれて、No.1※
ノミ・マダニ駆除薬のパイオニア
フロントライン®シリーズ

LINE公式アカウントオープン！
3/10(木)～6/9(木)
もれなくオリジナルLINEスタンプが無料でもらえる。

販売元　日本全薬工業株式会社　福島県郡山市安積町荒井字平ノ上1-1
製造販売業者　メリアル・ジャパン株式会社　東京都新宿区西新宿3-20-2